あふれる想い、商品に込めて　～大切な地域の宝を次の世代に繋ぐ～

佐賀県立唐津南高等学校　食品流通科　３年　小宮　妃奈

目を閉じて深呼吸。深く息を吸うと心の底から癒される深い緑の香り。400 年続く松原からの贈り物。私はこの贈り物を多くの人達に届けたいです。

私の住む佐賀県唐津市には、誇れる地域の宝があります。それが国の特別名勝であり、日本三大松原の一つ「虹ノ松原」です。松原は今から400年前、玄海灘から吹く潮風から唐津を守るために植栽された防風防潮林で、唐津の人達は松原と共に生活し、今日まで守り繋いできました。私も幼い頃から松原が大好きで、思いを形にするため、高校は虹ノ松原研究班がある唐津南高校に進学し、研究班として活動しています。そこで目にしたのは､松原を守るため懸命に取り組む先輩方の姿や、次の世代に繋いでいきたいという強い想い。そして、人々の想いが繋がり形となっていく瞬間を目の当たりにし、毎日が充実しています。

外から見ると美しい松原ですが、内奥部に入ると管理が行き届かず､鬱蒼とした森になっており、枝や木､松葉など未活用の資源が多数存在します。これらの資源は活用されないだけでなく、病気や害虫の恩賞や、痩せた土壌を好む松林の環境を悪化させます。それでは、松原を美しい状態にするどころか、壊していくことになってしまう。この問題を解決するため、これまでの先輩方は様々なアクションを起こし、地域のリーダーとして活躍されてきました。私もその想いに共感し、何かできないかと考えるようになりました。

何気なく松原清掃をしていた際の事です。参加者皆がマスクをしており、本来であれば環境を守る為、松原を通して出合った人達が互いに力を合わせることで自然と笑顔になれる場であるはずです。表情が見えない中、淡々と進む活動に疑問を感じました。それだけではありません。風が運ぶ美しい松の香りも、松原でしか感じられない植物の香りも感じることができません。大好きな虹ノ松原の香りを感じてほしい。そう思い、松原の資源を活かした松原香る食品開発を開始しました。

しかし、食品開発は想像以上に難しく、私が考えた商品が採用されることはありませんでした。松葉入りクッキー、どら焼き、ドーナツ。「なんか普通やね。」資源を活かし切れない無力感が私を襲いました。「私にできる事などないのだろうか。」そんなことを考え悩んでいたある日、学校で食品化学の授業を受けていた時です。「ウイスキーなどは蒸溜することで、アルコール濃度を高めるだけでなく独特の香りを得ることができる。」ノートを書く手が止まりました。松葉を蒸溜することで、虹ノ松原の香りが感じられる商品開発に繋がるかもしれない！早速研究支援を頂いている専修大学の岡田教授とオンライン会議を行い、松葉でアルコール飲料を作るプランを話すと､「松葉の香りはジンというお酒に似ている。蒸溜所に相談してみては。」と助言を受け、佐賀市諸富町にある楠乃花蒸溜所を訪ねました。蒸溜所の和田社長からジンの原材料であるジュニパーベリーの実をいただき、

手で潰し香りを嗅ぎました。「うわぁ！松葉の香りだ！」馴染みのある私の大好きな松葉の香りそのものでした。そこで私の開発プランを伝えると「松葉香るクラフトジンの開発を一緒にやりましょう」と快く受けてくださりました。

そこからは研究の日々です。私は原材料となる松葉の調達や配合を担当。間伐された松から一つ一つ丁寧に松葉を回収し、何度も試作しました。しかし、生葉だけでは青臭さが強く、思い通りの仕上がりになりません。「何をやってもうまくいかない」壁にぶつかった私は、商品開発について一から学ぶ為「聞き書き甲子園」に参加し、熊本県八代市で地域食材を活かした伝統食『かずら豆腐』を長年作られている亀田宏子さんの元を訪れました。現地を二度訪れ、実際に作業場でかずら豆腐作りを体験させてくださり、地元のイベントで販売のお手伝いも行いました。さらに、二年前の熊本豪雨による影響で製造が一時ストップした経験や、作り手が減少し地域の伝統が失われていく現状など、多くのお話を聞きました。中でも特に印象に残っている言葉があります。「一口食べると色んな想いが溢れ出す。自然と笑顔になる。そんなモノ作りをせんばいかんね。」食べ物を通して作り手の想いを伝えること、思い出や想いが溢れてくるようなものづくりをすることが大切だと言われていました。この言葉は私の心を優しく包み、自らの方向性を確立させてくれました。

商品開発のイメージが沸いた私は、改善策として研究班で開発した松葉パウダーの活用を提案しました。低温乾燥処理を行ったパウダーは青臭さがなく、上質な香りがします。生葉と混ぜることで問題解決できると考えたのです。配合を再検討し、ついに私が大好きな松原が香るクラフト松葉ジンが完成しました。完成した商品にラベルを一枚一枚丁寧に貼りながら、私の心は充実感でいっぱいになりました。科学的に分析を行うため、佐賀県工業技術センターで実験を行ったところ、ノーマルのジンと比べ、松由来の反応が見られました。研究員の吉村さんも「虹ノ松原で森林浴をしている気分にさせてくれる。そんな商品になっているよ。」と評価していただき、大好きな松原を形にした世界で唯一の商品が誕生しました。

最初の商品は地域に還元したいと思い、松原に隣接する居酒屋へ提供しました。「俺達の事を考えてくれたと？ありがとう！」嬉しそうに微笑まれる姿。お客様も「香りのよかね！」「松葉の入っとると？おいしかね！」「今度松原掃除に行くけん！」ととても喜んでくれました。製造した 270 本はすぐに完売し、これからも虹ノ松原の新しい魅力として発信していきます。

さらに、アルコールが苦手な方も楽しめるよう、ノンアルコール飲料も開発し、開発した２つの商品はＮＨＫでの世界配信や、お酒の専門誌で「日本産ジンとして世界に打って出ることができる商品」と評価され、今後、世界中に虹ノ松原の香りを発信できると確信しています。

虹ノ松原研究班は今年で発足 20 年。松原を守りたいという先輩達の想い、そして私達の活動に協力してくださった多くの方々の想いが松原に還元され、今日まで繋がってきました。今年４月、松葉ジンを飲んだお客様が松原の清掃活動に来られ、「この前松葉ジン飲んだよ。美味しかったけん松原に会いに来たよ！」微笑まれるお客様を見て、私が商品に込めた虹ノ松原を守り、次の世代にも繋いでいきたいという想いがあふれ、お客様に届いたと実感でき涙が出るほど嬉しかったです。

松原での経験から私にも夢ができました。作り手とお客様、互いの想いが溢れてくるような食品を開発するプロになる事です。作り手の想いだけが強すぎても伝わらない。お客様の想いに耳を傾けすぎても良い商品は完成しない。商品を開発する事は決して簡単なことではありません。しかし、失敗を恐れず試行錯誤を繰り返し、今後も商品に想いを込めていきます。そして、私が開発した商品から虹ノ松原を守りたいという想いが届き、美しい地域の宝が永遠に続く事を願っています。